伊達市 農業委員会だより

vol. 5

農地利用最適化推進委員は、農地を集積するなど、伊達市農業の一端を担っています。また、農地を後世に残していくことはもちろんのこと、農業の楽しさや充実さも引き継ぎたいと農業に取り組んでいます。

みんなと楽しい農作業をすることや作物の成長と実りが、農業の醍醐味と語ってくれた農地利用最適化推進委員の安田さん。（写真左から２人目）１～２時間の農作業が元気の秘訣で、健康づくりにもおすすめだそうです。（詳細は次ページ）

もくじ

仲間を作って楽しい農作業……2
農地での隣人との交流から
農地パトロール……2
農地の適切な管理をお願いします
市長へ意見書を提出……3
農地等利用最適化推進施策の改善に関する意見書
福島県下農業委員会大会……4
編集後記……4

仲間を作って楽しい農作業

～農地での隣人との交流から～

伊達市農地利用
最適化推進委員
安田善也

現在、私は農地利用最適化推進委員として活動している傍ら、農地2ha以上を耕作しております。83歳となった今では体力的に大変になったと、つくづく感じているところです。また、これからの農業はどうなっていくのかとも、つくづく考えさせられます。我が国では、5年後には23万人が離農すると予想されていると聞きます。食料自給率は37％で他国に頼っている食料が大半でありますし、世界を見てみると、約8億2千万人以上が栄養不足に苦しみ、特にアフリカでは生後1～2年の間に亡くなっていることが報道されているのを見ました。また、大規模な森林火災や砂漠化など、農地を取り巻く環境はとても厳しいものであります。早々に食糧危機が来るのではと危機感を募らせております。今の農家は、作物によっては若い方が従事しているところもありますが、70代の方が主力を担っています。80代の私から見れば、70代はまだまだ若くて体力もあり、農業を支える中心的年代と考えれば良いのか、と思う気持ちもあります。

さて、私には、以前から交流している会があります。きっかけは、隣の畑を耕作している方との会話からでした。この方は、退職された後、土いじりが楽しく、その友人たちも農作業に励んでいることもあり、「一緒にやらないか」と声を掛けていただきました。それからは、私の農地や機械を提供し、年に数回、畑に集まって、種まきから収穫、試食会などをしています。今年は「ジャガイモをみんなで楽しく育てる会」と銘打って、1～2時間ですが、楽しく過ごさせていただきました。みんなと楽しい農作業をすることや作物の成長や実りが農業の醍醐味です。また、この1～2時間の農作業が元気の秘訣で、健康づくりにお勧めします。

農業の大切さだけでなく、楽しさや充実さも後世に引き継き、みんなで農地を耕し、健康でいることを切に願うものです。

農地パトロールを行っています。

9月23日から30日にかけて、農地パトロールを行いました。また、農業委員と農地利用最適化推進委員が担当地域の利用状況を確認しています。

農地パトロールをする委員

（農地を所有されている方へのお願い）
雑草が繁茂している耕作放棄地は、病害虫の発生など、周囲の農地だけでなく、生活にも悪影響を及ぼす恐れがあります。農地は、耕作や草刈りなどにより適切な管理をお願いします。

農業委員・農地利用最適化推進委員の改選があります。

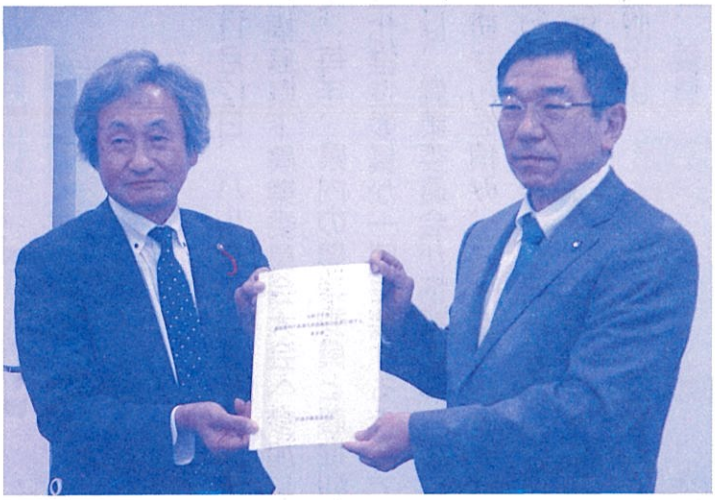
令和3年に、伊達市農業委員・農地利用最適化推進委員の改選があります。2月から応募を受け付けします。募集要項や応募用紙は農業委員会事務局で配付します。

現委員の任期（令和3年6月末まで）

市長へ意見書を提出しました。

10月22日、午後1時より、伊達市役所において、「令和3年度農地等利用最適化推進施策の改善に関する意見書」を市長へ提出しました。

これは、農業委員会等に関する法律の規定に基づき、次年度の予算編成時期に合わせて毎年行っているものです。


須田市長に意見書を手渡す清野会長

内容については、6項目にまとめ、今の農業の課題やその対応に関しての意見となっています。

（意見書の概要）

1 耕作放棄地の発生防止・解消対策について

(1) 「人・農地プラン」など、地域での話し合いへの補助

(2) 耕作放棄地を解消した際の補助金の上乗せ、農地集積の積極的な調整

2 農業後継者、担い手支援について

(1) 運転資金に対する支援

(2) 収入保険の掛金に対する支援

(3) 実践的研修の場の提供など、体制の整備、後継者への支援

3 原子力災害対策について

(1) ため池、水路などの除染やその作業で排出された廃棄物の処分について国・県へ早期に行うよう働きかけを行うこと

(2) 風評被害を払しょくし、消費者が安心して食するための支援

4 鳥獣被害防止対策について

(1) 具体的な捕獲隊員確保の方策を検討

(2) 電気柵などの設置に対する補助金の確保、補助要件の緩和

5 防災・減災対策について

(1) 河川やため池の定期的な管理

(2) ハザードマップにおける危険区域からの農業用施設などの移転推進、費用補助

6 モモせん孔細菌病対策について

(1) 防除に係る費用の補助率の引上げ

意見書を手渡した後には、市長と意見交換を行いました。

【主な発言】

・伊達市の名をもっと売って、モモやキュウリの名産地であることを広めて欲しい。

・災害復旧に対応いただいており、感謝している。被害の大きかった河川は未だ修復されていないので、引き続きの復旧をお願いする。来春の水田に水が間にあうか、心配している。

・「人・農地プラン」の作成に取り組む地域に対して、話し合いがしやすくなるように、支援をお願いする。

福島県下農業委員会大会に参加しました。

11月12日、パルセいいざかで開催された福島県下農業委員会大会へ参加しました。毎年、県内の農業委員と農地利用最適化推進委員が一同に会する大会で、目的は、農業委員会が情報を共有し、委員の研さんを積み、今後、より一層の活動に励むことができるようにすることです。今年は、新型コロナウイルス対策の入場制限により、委員4人の少人数での参加となりました。会場では、優良農業委員会や永年勤続委員への表彰が行われ、また、福島大学食農学類教授である小山良太氏による「新たな産地形成と食農連携」と題した講演では、福島大学で取り組んだ日本酒造りの紹介もあり、若い方々も農業への関心があること、実際に農業を体験することが重要である話を聞くこともできました。続いて、県知事への意見書、福島県選出国会議員へ行う要請についての報告もなされ、最後には、「農地利用の最適化に向けた申し合わせ決議」を行い、①農業委員会の活動強化②農地利用最適化の推進③情報提供活動の強化について、参加者の拍手により確認されました。例年とは違った少人数での開催ではありましたが、話に集中しやすく、大変有意義な大会となりました。次回は、コロナ禍が終息し、多くの委員が参加できるよう願っています。

福島県農業会議　鈴木代表理事会長あいさつ

福島大学小山良太教授による講演

編集後記

大河ドラマ「麒麟がくる」で始まった令和2年。コロナウイルスがやって来て、農業を含むすべての産業に甚大な影響を与え、人々のライフスタイルを変えてしまった。

私たちの自粛生活が続き、外食の機会が減ったことで、秋になり、今年産の玄ソバの取引価格が例年の半分以下、そして日本の原風景「田んぼ」が生むコメ、来年の主食用米の生産数量目安は今年の94%でコメの減反が始まった昭和46年以降最大となる。

「仁のある農政」史記に登場する「麒麟」が現れ、コロナを克服することを令和3年に期待し、1年の締めくくりとする。

編集委員　吉田浩重

◆編集委員
吉田　浩重委員（伊達地域）
宍戸　洋一委員（梁川地域）
長沢　壽幸委員（保原地域）
菅野　照　委員（霊山地域）
大武　有子委員（霊山地域）
髙橋　敏明委員（月舘地域）
清野　直人委員（会　長）
阿部　忠幸委員（委員長）

伊達市農業委員会だより　第5号
編集・発行　伊達市農業委員会事務局　令和2年12月24日発行
〒960-0692　福島県伊達市保原町字舟橋180番地　☎024-573-5623